

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1495400036	事業の開始年月日	2007/3/1	
		指定年月日	2007/3/1	
法人名	株式会社 生活科学運営			
事業所名	上布田つどいの家			
所在地	(〒214-0011)			
	神奈川県川崎市多摩区布田29-10			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名	
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名	
		宿泊定員	名	
		定員計	9名	
		ユニット数	1 ユニット	
自己評価作成日	2011/11/24	評価結果 市町村受理日	平成24年3月30日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

上布田つどいの家は、「住み慣れた地域で、できる限り暮らし続けるを応援します」を運営コンセプトとしております。1階の介護保険事業は、株式会社とワーカーズ・コレクティブが協力してサービスを提供し、2～3階の賃貸住宅はNPO法人が共生の住まいを目指して住まい方をコーディネートしております。月2回、地域の方に使っていただく地域交流スペースを開放し、「上布田カフェ」を開催している。地域の方との交流の機会を積極的に提供しております。また、地域の小学生が定期的手作りカレンダーを届けてくれたり、交流を続けております。心身機能の維持、予防として介護予防体操、口腔体操、音楽療法、アクティブ活動に積極的に取り組んでおります。ワーカーズ・コレクティブは定年制度がないので、地域の方への職場提供という観点からも大きな役割を担っていると感じております。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部		
所在地	神奈川県横浜市西区南浅間町8-22-207		
訪問調査日	平成24年1月26日	評価機関 評価決定日	平成24年2月27日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

【事業所の優れている点】

- ◇地域との交流
 - ・法人が提供する同一フロアの地域交流スペースでスタッフが運営する「上布田カフェ」に利用者が参加して、利用する地域住民と交流している。
 - ・町内会に加入し、敬老会行事等への参加や、高校生の職場体験の受入れ、幼稚園、小学生との交流にも積極的に取り組んでいる。
- ◇暮らしやすい居室環境
 - ・居室は畳の5室とフローリングの4室があり、広い廊下で居間に通じ、プライバシーを尊重しながら寛げる環境となっている。
- ◇利用者の生活優先の支援
 - ・身体機能の低下予防のため、機能訓練や音楽療法を取り入れ、生活リハビリと見守りで機能回復に努めている。

【事業所が工夫している点】

- ◇潤いのある生活
 - ・生活の中に生け花(華道)を取り入れたり、ボランティアと一緒に折り紙制作を楽しむなど、メリハリのある生活感が持てるよう工夫している。
- ◇利用者の人権重視
 - ・人格の尊重やプライバシーについては、会議、ミーティングで必須項目として取り上げるほか、介護福祉士職員が中心となってリスクマネジメント委員会を設置して身体拘束廃止や虐待防止を学び、徹底して介護にあたっている。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1～14	1～7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15～22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23～35	9～13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36～55	14～20
V アウトカム項目	56～68	

事業所名	上布田つどいの家
ユニット名	

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/>	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/>	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	3か条としてスタッフの目に付くところに掲示している。基本理念となっており、地域でいきいきとそれぞれが主役であることを目指し、温かい雰囲気の中で安心して生活ができるよう努めている。	・「その人らしく、お互い様を大切に、地域でいきいきと」の理念は、採用時の教育で徹底し、スタッフの個性、生活経験を大切に理念の共有と実践に努めている。 ・利用者がその人らしくのびのびと過ごすことを大切に実践に努めている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町会に加入し、敬老会等地域の行事に参加している。近隣小学校の訪問を受け、交流を続けている。月に2回地域交流スペースでカフェを開催し、地域の方との交流の場を提供している。	・フロアに隣接して地域交流スペースでカフェが開催されており、地域住民と自然に交流が出来ている。 ・町内会に加入して老人会の敬老会の行事に参加している。高校生の職場体験の受入れ、幼稚園、小学生との交流にも積極的に取り組んでいる。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域で開催された川崎市経済労働局主催の「ブンネ法セミナー」に協力し、地域への情報発信にも努めている。			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	併設事業と共同で二ヶ月に1回開催している。ご家族からの要望を聞く時間も多く取っており、ご家族間の意見交換や悩み相談の機会になっている。	・併設事業所と合同で2か月に1回、家族を中心に休日に開催している。状況報告、要望、家族間の情報交換等、積極的な話し合いが行われている。自治会役員の参加が可能になった。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	協力関係への取り組みとして、川崎市経済労働局主催の「ブンネ法セミナー」開催に協力した。	・運営に関して常に高齢者介護課からアドバイスや協力を得ている。 ・川崎市経済労働局主催のセミナー等研修行事の設営や運営に協力し、連携関係を築いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については厚生労働省の指導どおりに対応している。身体拘束廃止マニュアルや委員会も設置し防止に努めている。	・リスクマネジメント委員会を設置し、介護福祉士の職員を中心に、何が身体拘束に該当するかをマニュアルを基に勉強会で話し合い、身体拘束のない介護を徹底している。 ・日中施錠は玄関も含めていない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	介護班を中心に勉強会を行った。日頃から見過ごしていることはないか相互に注意を行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	併設事業で制度を利用されている方の情報をスタッフ間で共有し、理解を深めるよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約は、重要事項説明書の読みあわせを行い、併せて契約書でも説明しながら行っている。不明な点や疑問な点はその場でも、そのあとでもきちんと聞きお答えしている。支払いに関しては、見積りや支払い方法（法定代理受領と償還払い）を説明している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者からの意見をきちんと聞き、対応することはもちろんだが、声に出せない様子もスタッフが汲み取れる様に注意している。	・家族の訪問や運営推進会議の後など常に意見交換できる関係にある。 ・利用者とは親しみのある言いやすい雰囲気作りに努めている。 ・家族の意見・要望の把握のために、「要望書（案）」を家族と作成し、活用について話し合っている。	・家族参加でユニークな「要望書」案が作成されましたので、今後の活用を期待します。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	業務会議で出た意見は、月1回の全体ミーティングでスタッフ全員にも情報共有し、運営にいかしている。定期的にミーティングや打ち合わせを設定し、運営スタッフの意見が出やすい体制を取っている。	・管理者は年2回行う個人面談では時間をかけて意見や提案について話し合い、また、定例のミーティング等で互いに情報を共有して、介護計画や運営に反映している。 ・現場の提案や要望には早急に対応することで、スタッフとの相互信頼を築いている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	意見を聞く機会として、必要なスタッフには個人面談の場を設けている。職場環境、条件については、互いの意見交換の場を設け話し合いを行った。今後は全スタッフを対象に面談を行っていきたいと考えている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者はリーダーからの報告を受けられるようにしている。研修については法人内外の研修に数名ずつ参加し、必要な知識の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	介護支援専門員の連絡会に出席するように心がけている。また、利用者を通じて、関りのある事業所には管理者、介護支援専門員を中心にネットワークを作っている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族の意向を確認すると共に、契約前は面談等を通じてご本人の思いを聞き取るようにしている。また契約前に体験入居をお勧めし、不安を軽減するシステムを取り入れている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス利用内容をよく説明し、利用のイメージとすりあわせを行っている。ご家族の休息も利用の一面であることをお伝えし、サービス内容をご提案している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	まずはご家族のもっているサービスイメージを良くお聞きし、対応できるかどうかのすりあわせを行っている。必要であれば他の介護保険サービスを組み合わせて説明している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食堂の机、椅子移動や洗い物、洗濯物たたみは利用者と職員と一緒にやっている。習字や歌を利用者から学んだり、支えあう関係を築いている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	事業所へ訪問時や送迎時には日常のご様子やその日のご様子をお伝えし、コミュニケーションをとるようにしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	契約前に関係各所についての聞き取りを行うこととしている。ご友人等の事業所への訪問も制限せず、また長年の習慣については継続できるように調整している。	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の意思を大切に出来て来訪者は自由に受入れ、居室やリビング、廊下等が気楽に話のできる場として利用できる。 ・遠距離の外出、宿泊の旅行などは家族対応を基本に実現を支援している。 	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	人間関係が困難になりそうな場合には、席替えや机等の配置換えを行い、緩和を図っている。またスタッフが間に入り、場面転換をすることも重要だとスタッフ間で徹底している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了時に今後のことについて時間をとってお話するようにしている。契約終了後に地域交流として行っているカフェに顔を出される方もいる。		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご本人やご家族の意向を聞き取り、ケアプランを作成している。その後は日常生活から見直す場合や、定期的サービス担当者会議の中で修正し、意向に沿った計画をなるようにしている。	・入居時に家族や本人の要望、意向を把握している。 ・入居後は、日常会話の中で丁寧にわかりやすい言葉かけで傾聴し、また思いを表現しにくい人については、表情や行動を観察して、要望を汲み取るように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	契約前には必ずご本人や家族と話し合いを持ち、生活歴をはじめとして聞き取りを行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	自宅訪問時に状態の聞き取りや実際の確認をしている。また利用開始後の生活支援の中でも把握が出来るように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的に介護スタッフ中心の会議にケアマネージャーと看護師が出席し、きめ細かく対応できる体制を取っている。モニタリングでご家族等の意見もお聞きし、プランに反映させている。	<ul style="list-style-type: none"> ・ケアプランは、家族と面談して意見を聞き、看護師の意見も取り入れて作成している。 ・日常の利用者の実態、課題を業務会議で検討し、通常は3～6か月毎に、変化がみられる利用者については随時、ケアプランを見直している。 	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録は日常の様子を関わったスタッフが必ず記入することとなっている。記入内容はケアマネージャーも確認し、計画の中に反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者や家族の要望に応じて、訪問、通い、泊まりを組み合わせた事業所の多機能性を活かしたサービスに努めている。利用日、時間帯、回数などについても出来る限り要望に沿う設定をしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議のメンバーだけでなく、常に地域の方々との連携を心がけている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関と関係作りを心がけている。受診結果や服薬の変更については必要に応じて家族に報告している。	<ul style="list-style-type: none"> ・当初、家族対応でかかりつけ医を受診していたが、現在は全員が契約医を主治医とし定期検診、個別往診にも対応している。 ・看護師職員を中心に、24時間かかりつけ医、協力医との連携が取れる体制にある。 	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	内部で週3～4回、看護師が勤務する体制を取っており、健康管理をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の経過をご家族に確認しながら受け入れ予定を立てている。また退院の準備を家族と一緒にする場合もあり、退院後の生活について話し合いの場を持っている。ムンテラ等に出席したり、リハビリの様子をうかがうように努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者が重度化した場合や、終末期に事業所ができることについて、事前に利用者、家族、職員、かかりつけ医等の関係者と話し合っ方針を決め、共有するよう努めている。終末期に対応するため、医師や看護師より指導を行う必要がある。	・終末期に対しては、本人、家族の意思を尊重し、事業所としてできることを説明し、話し合っ方針を決めている。 ・方針に添って、医師、家族、スタッフが連携して情報を共有し、退院支援などにも取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生に対する緊急時マニュアルを設置している。初期対応訓練を定期的に行なう事は今後の課題である。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害マニュアルを作っている。夜間想定を含む年2回の避難訓練を行って、災害時の対応を図っている。地域との協力体制については、運営推進会議でも相互の課題として認識している。	・消防署の立ち会いの下、利用者も全員が参加してで避難訓練を年2回行っている。 ・地域の町内会と防災に関して相互協力の在り方を協議している。 ・水と非常食を倉庫に備蓄している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	不快感を感じないような言葉使いが基本となっている。入浴時、排泄時にもプライバシーを損ねない対応を心がけている。言葉遣いは厳しく指導している。	・人格の尊重やプライバシーについては、会議、ミーティングの折、必須項目として取り上げ、職員に周知させている。 ・呼び名は丁寧に姓を「さん」付けにし、トイレ利用時は戸を閉める事を徹底している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が自己決定できるよう声かけを工夫している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事、おやつ、体操、散歩などの時間は決めているが、それ以外の時間帯については、各人の体調や希望に合わせた過ごし方をしている。昼寝や休息などをペースに合わせて自由に取れるような支援を心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望者には月に2回の理美容カットを案内している。また、ご家族がボランティアでネイルアートをしていただいたとき、利用者はとても喜んでいた。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者が買い物同行、料理、配膳、下膳、食器洗いを行えるように声かけをしている。	・昼食は週3回、小規模のメニューでスタッフが調理室で作っているが、それ以外の4日間の昼食と朝、夕は、職員と利用者が好みのメニューで一緒に作っている。 ・利用者は、食器洗いや片付けをできる範囲で進んで行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事チェック表で食事量や水分量の記録をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後には口腔ケアを行っている。入れ歯の取り外しが困難な方、協力医療機関（歯科）から助言を受けている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄は時間を決めず個別で対応している。排泄チェック表で個人のリズムを把握するようにしている。プライバシーに配慮した対応を心がけている。	・排泄チェック表により利用者のパターンを把握し、様子を見て声をかけをして、居室のトイレに誘導したりしている。 ・自尊心と自立心を大切に、一人一人の状態に応じて誘導し、自立できるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	未排便の日数を把握し、必要に応じて、看護師を中心に排便コントロールをしている。できる限り、薬に頼らないように水分補給と運動を促している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴はご本人の希望やご家族の意向を加味して回数等を計画している。同性介助を心掛け、個浴の為、ゆっくり入浴していただいている。対応の際はプライバシーに配慮している。	・週3回の入浴にしているが、希望に応じて増やしている。 ・希望で毎日、シャワー浴の人や週2回、家族が手伝いに来る人もいる。希望により同性介助にも対応している。 ・好まない人には、声掛けを工夫して入浴してもらったり、清拭などで対応している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	消灯時間、起床時間は細かく設定していない。朝は無理やり起こすことはせず、一人ひとりの習慣を大切にしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の内容については家族から提供していただく内服薬の説明書で確認をしている。また、服薬管理表を作成し、服薬のダブルチェック確認を行っている。薬局による勉強会を11月に開催した。定期的開催予定。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の希望や体調に応じて洗濯物の取り込み、たたみ、テーブル拭き、洗い物などの役割分担をしてもらっている。また、体操のリーダーを担っている方もいる。その際にはやらされている感が出ないように注意している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	事業所周辺への散歩等日常的に外出している。また年1回遠足に出かけている。	<ul style="list-style-type: none"> ・天気が良い日には事業所の周辺や近くのみさわ川まで散歩し、近隣のバラ園、小学校の運動会や発表会に出かけている。 ・年一回は遠足行事で小規模多機能の利用者人達と一緒に「府中の森公園」等に遠出している。 	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者がお金を持ち込んでいる様子は見受けられない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	必要時、ご希望とご家族の了承があれば電話をしたりといった事に対応している。現在はそういった希望を受けていない。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	小物や雛飾りなどで季節感を出す工夫をしている。お花などで温かな雰囲気となるようにしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・リビングの壁には利用者の季節にちなんだ作品や、習字、塗り絵が飾られている。 ・日当たりの良い南側の縁側は日向ぼっこをしたり、ソファでくつろぎの場になっている。 ・換気や加湿器による湿度調節に気をつけている。 	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	小上がりや縁側など、人の気配を感じながらみんなと離れる空間作りをして、くつろいで過ごせるような配慮をしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	標準装備は、エアコンと照明、カーテンのみ。ベッドや家具は、本人が使い慣れたものを持ち込んでいただくことにしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・居室にはトイレ、洗面台があり、南側の縁側に面して畳の部屋5室と西側にはフローリングの4室がある。 ・ベッド、タンス、テーブル、椅子、縫いぐるみ、写真など利用者の好みのものを置き、気持ちよく過ごせるようにしている。 	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーを取り入れている。居室には手すりや車椅子のまま使用できるトイレを設置し、身体状況の変化にも対応できるようにしている。		

目 標 達 成 計 画

事業所名

上布田つどいの家

作成日

平成24年3月6日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	10	緊急時や終末期に備えた「要望書」を作成しているが、まだ完成にはいたっていない。	家族の要望をスタッフが把握することで、日常のケアに生かしていく。	管理者、計画作成担当者主導で要望書を作成。ご家族からの回答を確認し、スタッフへ伝える。	3ヶ月
2	4	運営推進会議=ご家族会になっていて、行政の参加がない。	地域包括支援センターならびに区役所から参加いただき、中立的な立場での助言をいただく。	年に1～2回は土曜日または平日開催とする。	1年
3	13	今年度は、社内、社外研修とも不十分だった。	ADL低下、法改正などいろんな変化に対応できるようにしたい。	スタッフ個々の課題を確認。ピンポイントの研修を実施する。また全体として必要な介護技術や法改正は全員が集まる場で研修をしていく。	1年
4					
5					

注) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。